

2021 年度決算説明会サマリー

2022 年 5 月 11 日開催

(1) 2021 年度 決算概要 (前年比) 単位：億円

スペシャリティー事業が大きく貢献し、各利益とも過去最高を更新する結果となった。

① 売上高	3,848	+305	数量差+286、売価差+331、収益認識に関する会計基準変更△313
② 営業利益	401	+54	
数量差		+205	xEV・半導体関連製品の需要拡大 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット(政府への供給含む)、炎症マーカーなど検査試薬がプラスも、インフルエンザワクチンは生産性悪化によりマイナス クロロプレンゴムなどの主要製品は新型コロナウイルス影響から需要回復
売価差		+331	新型コロナウイルス抗原検査キットの保険点数引き下げ 原材料価格上昇に対応したスチレン系製品など販売価格改定 (為替変動影響+84 含む)
変動原価差	△405		原材料価格上昇、他 (為替変動影響△55 含む)
コスト差	△78		固定費等
-----			
要因別内訳 計		+54	

xEV・半導体関連製品と新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの需要伸長が寄与し増益。

(2) 2022 年度 業績予想 (前年比) 単位：億円

営業利益は 3 期連続での最高益更新を見込む。

前提条件：為替レート 125 円/\$、国産ナフサ 89,000 円/KL

① 売上高	4,550	+702	数量差+141、売価差+560
② 営業利益	430	+29	
数量差		+71	インフルエンザワクチンの新棟稼働による大幅な出荷増、 xEV・半導体・5G 通信・再生可能エネルギーなどの需要伸長 クロロプレンゴムのハリケーンアイダによる一過性のマイナス影響解消
売価差		+560	アセチレンブラックの製品価値に見合った大幅な価格改定 新型コロナウイルス抗原検査の保険点数引き下げ、原料市況上昇に対応した製品販売価格改定 (クロロプレンゴム、ポパールなどの追加値上げ) (為替変動影響 +218 含む)
変動原価差	△492		原材料価格上昇、他 (為替変動影響△167 含む)
コスト差	△110		固定費等
-----			
要因別内訳 計		+29	

スペシャリティー事業のメガトレンドを捉えた需要拡大・伸長、機動的な価格改定によるスプレッド改善により増益。

(3) 株主還元

株価推移などに応じ機動的な自己株式取得も実施し、総還元性向 50%基準の方針を維持。  
2022 年度の 1 株当たりの配当予想は、昨年と同額の年間 145 円。

2021 年度配当 : 145 円/株 (中間 70 円・期末 75 円)、配当性向 48%

2022 年度配当今回予想 : 145 円/株 (中間 70 円・期末 75 円)、配当性向 43%

#### (4) 2022 年度業績予想 (Denka Value-Up 数値目標との差異)

	(2022 年度経営計画)	(2022 年度予想)	(計画比)
電子・先端プロダクツ	215 億円	235 億円	(+20 億円)
ライフィノベーション	105 億円	100 億円	(△ 5 億円)
エラストマー・インフラソリューション	65 億円	10 億円	(△55 億円)
ポリマーソリューション	105 億円	75 億円	(△30 億円)
その他/消去等	10 億円	10 億円	(± 0 億円)
合計	500 億円	430 億円	(△70 億円)

電子・先端プロダクツ、ライフィノベーションは計画に対し堅調に進捗も、エラストマー・インフラソリューション、ポリマーソリューションは原材料価格の高騰や市況の悪化などマイナス影響を受け、数値目標には未達の見通し。

#### (5) 2023 年度に向けて

スペシャリティ事業の持続的な成長と基盤事業の収益改善により 2023 年度営業利益 500 億円を目指す。

2022 年度予想 : 営業利益 430 億円 (スペシャリティ事業の営業利益 375 億円)

2023 年度目標 : 営業利益 500 億円 (スペシャリティ事業の営業利益 400 億円)

#### (6) 主な質疑応答

##### ① 外部環境による 2022 年度業績への影響

- ・ロシア・ウクライナ情勢、中国でのロックダウン、半導体不足による自動車減産など現時点で想定可能な影響を 2022 年度業績予想に織り込み済み。
- ・ロシアからの石炭調達はサステイナブルではない。豪州炭への切替え体制に概ねメドをつけるなどの取り組みも行い、操業に与える影響はない。

##### ② アセチレンブラック価格改定の進捗状況

- ・製品価値に見合った価格へ大幅改定。2022 年度業績に寄与。

##### ③ インフルエンザワクチン、新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの販売見通し

- ・インフルエンザワクチンは、原液新棟の稼働により生産能力が倍増したことに加え、販売提携先の強力な販売チャンネルにより、需要の高い秋口での販売を強化。2022 年度は 1,000 万本の生産を計画。
- ・新型コロナウイルス抗原迅速診断キットは、2022 年 1 月以降、足元を含めて需要が好調。家庭、職場、イベントなど様々な場所でのスクリーニング用途を含めた需要が順調に拡大。前年のような日本政府への供給予定はないものの、2022 年度の国内での出荷数量は前年並みを見込む。

##### ④ エラストマー・インフラソリューションの業績見通し

- ・クロロプレンゴムは、前年度に凍害、ハリケーン影響を受けた米国 DPE でのマイナス影響の解消と、原材料価格高騰に対応した価格改定により大幅増益の見通し。

以上